会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（甘沼自治会）
2　日時	平成30年8月17日（金）18：00～19：00
3　場所	甘沼自治会館
4　出席者	（資源循環課）添田主幹、水本主事 （環境事業センター）広田主幹、関原主査、田中技能労務統括主査、島田技能労務副主任 （甘沼自治会）参加人数：30人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●有料化が決定した場合は、現在の資源回収推進地域補助金の制度はなくなるのか。 →資源回収推進地域補助金は、資源物を出していただいた量に応じて年2回補助金として自治会にお支払いしているものである。有料化は決定した話ではないが、有料化が実施されることになれば、どの品目を有料化するのか検討する中で、補助金のあり方も考えていきたい。資源化の推進のためにも補助金は継続するという考え方もあるし、補助金を収集場所の維持管理に使われている自治会も多い中、戸別収集が実施された場合の補助金の必要性について、今後検討していきたいと考えている。 ●もう少し啓発活動に力を入れてもらいたい。ごみの減量のために市民がすべきことを、行政がはっきりと示して欲しい。また、自治会員以外の方にどのような形で啓発していくつもりなのか知りたい。 →現在、ホームページにごみ処理の課題についての記事を掲載しており、スマートフォンでも周知を図っている。10月に行われる環境フェアにおいても、2033年ごみ処理の危機と題したチラシを入れたポケットティッシュを配布する予定でいる。これまで啓発が行き届かなかった方々にも、ごみに関心を持ってもらい、ごみの排出に責任を持ってもらえるような取り組みを行っていくことを考えている。 ●市民一人当たりのごみ処理経費について、なぜ茅ヶ崎市は国や県より高いのか。 →資料に掲載しているごみ処理経費については、自治体の規模やごみ処理の方法、資源化の品目によってもだいぶ金額が変わる。目安として掲載していることをご理解いただきたい。 ●近隣市のごみ処理経費はどのくらいか。 →平成28年度のごみ処理経費は、茅ヶ崎市12,763円、藤沢市14,972円、大和市12,763円、逗子市15,102円、鎌倉市19,339円、平塚市9,768円である。このことからもわかるとおり、他市と比較して、著しく高い額ではないと考えている。

●ごみの収集について、直営と委託の違いにより、どれほどごみ処理経費に影響が出ているのか。
→茅ヶ崎市では、焼却炉、粗大ごみ処理施設、大型ごみ・資源物の収集について委託しており、ごみの収集・計量及び最終処分場の管理は直営となっている。現在、茅ヶ崎市も委託をすすめているところであるが、直営・委託といっても、業務が細かく分かれており、近隣市の状況については、直営と委託の業務における割合は把握できておらず、直営と委託の違いによる経費への影響は分かりかねる。

●灰の溶融化については、将来的にはどのような展望か。
→現在、茅ヶ崎市では、焼却灰の年間発生量 8,000t のうち、1,000t 程度を溶融している。一方、藤沢市や平塚市は全量溶融である。焼却灰を溶かすと、ガラス質の石のようになり強度も高いので、道路の路盤材に再利用されている。茅ヶ崎市も平成 45 年度には最終処分場が使用できなくなるので、それまでに溶融の量を増やし、焼却灰が最終的には資源となるような循環型社会をすすめていきたいと考えている。

●アンケートを見て、有料化に向けての説明会なのだろうと思った。有料化が実施された場合、高齢者が、有料袋いっぱいになるまでごみを溜め込み、結局集積場所まで持っていけなくなるということがおこるのではないかと懸念している。
→先行自治体でも、軽減措置を設けている自治体もある。また、高齢者でごみが集積場所まで出せない方については、一定の要件はあるものの、安心まごころ収集を利用していただくことも考えている。

●最近、受益者負担が増えているように思う。歳入に合わないようなお金の使い方をしているのではないか。市民が使わないような大型開発ばかりにお金を使わず、市民のためになるようなお金の使い方をしてもらいたい。
→受益者負担の適正化については、他市でも同様に行っていることである。ごみの有料化に関しては、ごみを減らす努力をしている方と分別を全くしない方との公平感を確保するという趣旨である。有料化で得た収入は基金として貯めておいて、処理施設の維持・修繕が必要となったときに活用させてもらおうと考えている。大型開発についてのご意見は、議事録にまとめて上層部にも伝えたいと考えている。

●将来の人口推計はどうか。
→茅ヶ崎市のホームページにも掲載されているが、平成 32 年度が人口のピークで、平成 47 年には 232,000 人と推計している。
→現在、推計中の課題も多い中での意見交換会であるので、今後方針を決定する前には、改めて制度設計をお示しし、またご意見を賜りたいと考えている。

以上